



カメラマン：西山芳一（表紙、並びに当ページ）

明治宇津ノ谷隧道

静岡県静岡市駿河区宇津ノ谷

「宇津ノ谷隧道」は、静岡県藤枝市（岡部地区）と静岡市（宇津ノ谷地区）を結ぶ煉瓦造のトンネルだ。通称「明治のトンネル」。急峻な峠に穿たれた坑口に立つと、反対側から山肌を集められた清涼な風が吹いてきた。

この旧道の峠道は、平安時代より東西を結ぶ重要なルートだったが、トンネル整備の声が上がったのは明治期になってからだ。着工は明治七年、両サイドから掘削が始まった。宇津ノ谷側は硬い青石積み、岡部側は杉や楠の角材による合掌造りの支保で施工された。二年余りで貫通したが、当時の土木技術では直線で貫通することが叶わず、坑道は「くの字」で、段差もあったという。更に明治二十九年、カンテラの失火で合掌枠が焼失、崩落して通行不能となる。七年後に始まった復旧工事で、宇津ノ谷側の開口部を変更して坑道を直線に直し、アーチ部はイギリス積み、側壁部は長手積みの総煉瓦造のトンネルに生まれ変わった。

昭和に入ると、自動車の普及に伴い廃道となったが、現在、遊歩道として当時の隆盛を伝えている。地域振興に関わる企業組合岡部宿かしばやの栗田隆代表理事は「地域では日常的なトンネルでしたが登録有形

文化財、土木遺産に指定されたことで注目を集め、いまやトクイベントも行われるようになりました。宇津ノ谷峠越えの道は二〇一九年十月に文化庁選定『歴史の道百選』にも追加選定されました。貴重な構造物を地域で協力して次世代に伝えていきたいですね」と話してくれた。

長さ203m、高さ3.8m、幅3.9mの煉瓦造の宇津ノ谷隧道。1996年にトンネルと地山の隙間に発泡ポリウレタンを注入し、更にロックボルトを打ち込み地山と一体化する補強工が行われた。坑内の煉瓦にその形跡を見ることができる。明治のトンネルを残すため現代の土木技術が一役買っている。なお、上の写真が静岡市側坑口、左の写真が藤枝市側坑口。

